

## 2017年度事業実績

平成 29 年度においては、本学の教育理念である「愛と奉仕」の精神を基軸に、教育、研究、地域貢献活動を柱として諸活動を展開した。

### 1 教育活動

#### (1) 教育方針

地域社会の発展に貢献するための専門的知識・技能を修得させるとともに、人生を生き抜くための思考力や判断力、そしてコミュニケーション能力などを身に付ける教育を実践し、学生の満足度を高める教育に努めた。

#### (2) 教育活動

大学・大学院 624 名、短期大学 233 名の計 857 名の在学生(平成 29 年 5 月 1 日現在)に対して各学部学科の特性を活かして、多岐にわたる教育活動を行った。

- ・大学院看護学研究科では、精神看護 CNS（専門看護師）試験に 1 名が合格した。専門分野の動向や最新情報を取得するため、学会に参加し学会発表するなど、教育研究活動の充実に努めた。
- ・総合人間学部言語文化学科では、海外体験科目の充実に努め、助成金制度を活用し 30 名が海外体験をした。英語コースでは、集中講義科目を新設し実用英語力の向上に努めた。
- ・看護学部では、初年次教育から専門教育、国家試験対策、就職支援までの一貫した教育を行い、看護師国家試験合格 100%を達成した。
- ・開設 2 年目の助産学専攻科では、母子保健に貢献できる職業人を養成するため、幅広く確かな知識、高度で質の高い技術の修得に取り組み、2 年連続、助産師国家試験 100%合格を達成した。
- ・食物栄養学科では、専門知識や技術を確実に修得させるため、その方策として、給食管理実習において、実習内容に関する事前指導を徹底し、事後指導では報告会を開催し、学修内容や課題解決方策を発表させ、栄養士としての能力向上に努めた。
- ・幼児教育学科では、保育者に必要なピアノ演奏能力や文章作成能力などの確実な修得のため、補習時間を設定し自主練習させるなど、実務能力と実践力の向上に重点を置いた教育に取り組んだ。

#### (3) 就職支援の強化

- ① 就職率の向上のため、就職適性検査、就職実践模試の分析結果を関係部門の職員が共有するなど、キャリアセンターと各学科との緊密な連携のもと、個々の学生に応じた対応・指導を行い、全学科で就職率 100%を達成した。

学科別就職率 (5 月 1 日現在)

- ・総合人間学部 : 言語文化学科 100% 生活心理学科 100%
- ・看護学部 : 看護学科 100%
- ・短期大学 : 食物栄養学科 100% 幼児教育学科 100%

- ② 就職が決定まで 1 対 1 の面談を重ねるとともに、早い時期から就職意識を醸成するため、保護者や在在学生を対象にした「就職懇談会」、また専門職を対象にした「保育士合同面

談会」、「栄養士等業界説明会」、「実習病院就職説明会」等の就職支援活動を実施した。

(参加者数)

|            |     |           |     |
|------------|-----|-----------|-----|
| 就職懇談会(保護者) | 77名 | 保育士合同面談会  | 61名 |
| 就職支援バス     | 11名 | 栄養士等業界説明会 | 51名 |
| 卒業生による業界紹介 | 44名 | 実習病院就職説明会 | 68名 |

③ 「社会人入門」や「インターンシップ」に加え、新たに県内優良企業と連携した「企業協働型ラーニング」を開講し、就職支援科目の充実を図った。

④ 就職先企業を中心に訪問するとともに、卒業後3年を経過した卒業生及び就職先企業に対するアンケート調査を実施し、卒業生のフォローアップと企業との関係強化に努めた。

#### (4) 退学・除籍者数

857名の在学生のうち、46名(5.3%)が退学あるいは除籍となった。一人ひとりへの丁寧な対応に努めたが、年次目標値(3.0%)の達成には至らなかった。

- ・大学院看護学研究科1名(20.0%)
- ・総合人間学部言語文化学科13名(8.1%) /生活心理学科15名(11.3%)
- ・看護学部看護学科6名(1.9%)
- ・助産学専攻科0名(0%)
- ・短期大学食物栄養学科6名(5.4%) /幼児教育学科5名(4.1%)

退学の主な理由は、進路変更、精神的・身体的理由などで、除籍の主な理由は、学納金未納で留学生が多くを占めている

退学が懸念される学生については、アドバイザーやクラス顧問が根気強く指導にあたり、修学意欲の維持・向上等を図るとともに、教授会でも対応策を協議した。

#### (5) 学生募集活動

① すべての教職員が本学の“強み”を共通認識して募集活動を展開するため、大学案内を全面的に見直し、各学科の特色や強みを解り易く紹介し、本学に対する認知度を高めた。また、高校訪問に際し事前研修を行い、訪問用QA、入試結果、就職状況などの情報の周知徹底、共有化を図った。

さらに、高校訪問担当を増員し、密度の濃い高校訪問や進学ガイダンスを行った結果、高校からの要望や情報提供を活かした募集活動につなげた。また、在学生の出身校訪問が定着化し、高校生に親近感のある募集活動を行うことができた。

② オープンキャンパスでは、参加者の興味を引き良い印象が残るように、学科の説明内容を工夫するとともに、保護者向けの説明や自由見学時間の設定などオープンキャンパスの内容を見直し、充実させた。実施後は、参加者の情報やアンケート結果など教職員間で共有して改善につなげた。

③ 県外学生の増加を図るため、特に、空路のある沖縄県を対象に高校訪問を強化するとともに、那覇に学外試験場を設け、一般I期2名、特別推薦2名、センター試験利用2名の受験生があった。

④ 地域マネジメント学部の学生募集に当たっては、設置認可が遅れたため、入試日程の変更を余儀なくされた。推薦系入試に影響があり十分な学生確保ができなかったが、普通科高校に加えて、農業、商業、工業高校等の幅広い校種への高校訪問、また、広報活動を精力的に行った結果、全体では入学定員を超える志願者数があり、42名の一期生を確保できた。

- ⑤ 平成 30 年度から、新たに就職に必要な知識・技能を習得するための職業訓練を県立南部高等技術専門学校から受託し、食物栄養学科に 4 名、幼児教育学科に 7 名の学生を受け入れた。

## 2 研究関連事項

地域ニーズに基づく研究活動、学内競争的研究費の配分及び競争的外部資金獲得を中心的に活動を行った。

- ① 研究成果を積極的に公開するため、44 名の教員が論文発表 52 件、学会発表 46 回の計 98 回の発表を行った。
- ② 学内競争的研究費の配分については、教育改革公募研究支援経費（1 件 20 万円）として 3 件、学内研究補助金（1 件 30 万円）として 21 件、計 690 万円の配分を全学的に行った。これらの研究成果報告書の取りまとめは、山陽論叢に掲載するなど公開を進めている。
- ③ 競争的外部資金獲得については、平成 27 年度から引き続いて教学事項の見直しを実施しつつ、「私立大学等改革総合支援事業」の申請を行った。その結果、「教育の質的転換」及び「地域貢献」のタイプに採択され、LL 教室のプロジェクターなど機器の整備を行った。

## 3 地域貢献関連事項

### (1) 大学・短大が主催・共催する地域との連携事業

- ① 公開講座は、第 1 回は本学で「被害者支援サポートのあり方」、第 2 回は真庭市で「町並み保存」、第 3 回は和気町で「和気と閑谷の魅力」、第 4 回は本学で「子どもの健やかな成長」をテーマに開催した。
- ② 学友会関連では、「さんばと隊」が地域の防犯活動へ 8 回出動した。
- ③ 全ての学科において「親子交流広場」に取り組み、幼児教育学科は 3 回、他の学科は 1 回実施した。この他、看護学科は平井学区で健康測定、生活心理学科は笠岡市大島地区との連携事業、食物栄養学科は「オレンジカフェ」への学生派遣など計 23 回の地域連携活動を行った。

### (2) 学生のボランティア参加述べ人数

学生の自主的な活動をはじめ、学友会・部長会・サークルとしての取組など計 398 人回行われた。

## 4 大学運営関連事項

- (1) 合同会議を月 2 回開催し、学内情報の共有と教授会等の各種会議体や事務局各部署との連携を図り、柔軟で迅速なガバナンスを確立するとともに、大学運営の改革改善の推進に努めた。
- (2) 地域マネジメント学部の設置について、教学面、管理面での検討を重ね、文部科学省に対して設置認可申請を行い、11 月 14 日に設置認可された。
- (3) 大学・短期大学において、日本高等教育評価機構による機関別認証評価を受審し、3 月 6 日に共に適合認定を受けた。
- (4) 山陽スピリット推進室を中心に、山陽学園大学、短期大学に所属するすべての学生・教職員の帰属意識を高めるとともに、「愛と奉仕」の精神に基づく教育を実践していることを学内に徹底し、マスコミ等を通じて学外に向けて広報した。

- (5) 教職員の資質向上と適正な業務執行体制を確立するため、FD (Faculty Development 教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取り組み)、SD (Staff Development 事務職員の資質向上のための取り組み) を7回実施した。
- (6) 教職員の健康管理・健康増進・安全確保に努めるとともに、心身の健康状況を把握するためのストレスチェックを実施した。
- (7) 学生による授業評価をもとに教員表彰を行うなど、教員のモチベーションの向上に努めた。
- (8) 英検、TOEIC 等の試験会場として本学を提供することにより、高校生等の本学に対する認知度の向上に努めた。

## 5 山陽学園短期大学附属幼稚園

豊かな感性を養うとともに主体的に行動できる幼児の育成を図るため、園のシンボルである芝山での遊び、大学の池周辺でのミニマラソンなど自然の中で心や体の育成に努めた。

また、お茶会、陶芸や餅つき会などのイベントを通して地域の方々と交流を深め、地域や家庭との連携を深めることができた。このように、日々の保育の中に、自然との触れ合いを取り入れ、人とのかかわりを広げる活動を積極的に実施した。

### 【 数値目標の達成状況 】

| 【定員の確保】   |          |       |          |        |
|---|----------|-------|----------|--------|
| ・新学部を除き H30 年度の入学定員を 100%確保する。<br>(新学部については入学定員 80%を確保する。)        |          |       |          |        |
| 大学  | (H27)    | 76.0% | (H28)    | 75.5%  |
|   | (H29)    | 76.5% | (H30)    | 105.5% |
| (新学部 70.0%)   |          |       |          |        |
| 短大  | (H27)    | 97.2% | (H28)    | 68.3%  |
|   | (H29)    | 64.4% | (H30)    | 60.6%  |
| ・山陽女子高からの入学者を 50 人以上確保する。   |          |       |          |        |
|   | (H27)    | 35 人  | (H28)    | 33 人   |
|   | (H29)    | 34 人  | (H30)    | 45 人   |
| ・AO入試による入学者を 50 人以上確保する。  |          |       |          |        |
|   | (H27)    | 43 人  | (H28)    | 26 人   |
|   | (H29)    | 46 人  | (H30)    | 49 人   |
| ・オープンキャンパスの参加者を 20%増やす。   |          |       |          |        |
|   | (H26)    | 909 人 | (H27)    | 813 人  |
|   | (H28)    | 827 人 | (H29)    | 933 人  |
| 【教育の充実】   |          |       |          |        |
| ・中途退学者・除籍者の割合を 3.0%以下にする。   |          |       |          |        |
|   | (H26)    | 4.2%  | (H27)    | 3.8%   |
|   | (H28)    | 4.8%  | (H29)    | 5.3%   |
| ・全学生の GPA 平均値を 2.4 ポイント以上とする。 ※GPA 値=(授業科目の単位数×授業科目の評価点)÷授業科目の単位数 |          |       |          |        |
|   | (H27 前期) | 2.2   | (H27 後期) | 2.4    |
|   | (H28 前期) | 2.3   | (H28 後期) | 2.4    |
|   | (H29 前期) | 2.4   | (H29 後期) | 2.3    |
| ・学生による授業評価が 3.9 ポイント以上の授業の割合を 90%以上とする。                           |          |       |          |        |
|   | (H28 前期) | 84.1% | (H28 後期) | 86.7%  |
|   | (H29 前期) | 79.7% | (H29 後期) | 80.5%  |
| ・学修成果発表の機会を各学科で 2 回以上設定する。  |          |       |          |        |
|   | (H29)    | 83.3% |          |        |
| ・アンケート調査により、「教育内容について満足している」と回答する学生が 70%以上になるようにする。               |          |       |          |        |
|   | (H29)    | 51.5% |          |        |
| 【資格取得の推進】   |          |       |          |        |

|   |
|---|
| <p>・看護師国家試験の合格率 100%を達成する。</p> <p style="text-align: right;">(H26) 91.3% (H27) 92.5% (H28) 88.6% (H29) 100.0%</p>                             |
| <p>・助産師国家試験の合格率 100%を達成する。</p> <p style="text-align: right;">(H28) 100.0% (H29) 100.0%</p>  |
| <p><b>【希望する就職の実現】</b></p>   |
| <p>・全ての学科で就職率を 100%にする。</p> <p style="text-align: right;">(H29) 言語 100%、生活 100%、看護 100%、食栄 100%、幼教 100%</p>                                   |
| <p>・専門職への就職率を 80%以上にする。[食栄]</p> <p style="text-align: right;">(H26) 73.9% (H27) 75.9% (H28) 67.2% (H29) 77.8%</p>                             |
| <p>・専門職への就職率を 95%以上にする。[幼教]</p> <p style="text-align: right;">(H26) 88.2% (H27) 88.7% (H28) 86.9% (H29) 96.4%</p>                             |
| <p><b>【研究活動の活性化】</b></p>  |
| <p>・外部資金（科研費等）を 10 件以上獲得する。</p> <p style="text-align: right;">(H26) 4 件 5,200 千円 (H27) 6 件 6,890 千円 (H28) 8 件 7,613 千円 (H29) 9 件 4,976 千円</p> |
| <p>・全ての教員が論文等の発表 1 件以上又は学会発表 1 回以上を行う。</p> <p style="text-align: right;">(H29) 52.3%(44 人)</p>  |
| <p><b>【地域連携・地域貢献の推進】</b></p>  |
| <p>・大学・短大が主催（共催）する地域との連携事業を 20 件以上実施する。</p> <p style="text-align: right;">(H29) 20 件</p>  |
| <p>・学生のボランティア参加人数を延べ 200 人回以上とする。</p> <p style="text-align: right;">(H29) 398 人回</p>  |
| <p><b>【その他】</b></p>   |
| <p>・パブリシティによる情報発信を年間 60 件以上行う。</p> <p style="text-align: right;">(H29) 140 件</p>  |
| <p>・図書貸出冊数を学生一人当たり 15 冊以上とする。</p> <p style="text-align: right;">(H26) 14.1 冊 (H27) 12.2 冊 (H28) 14.9 冊 (H29) 14.0 冊</p>                       |